

スイカ栽培農家の労働状況調査

婦中農改八尾支所

笹島睦乃
舟田文子

1. はじめに

兼業農家における農作業は婦人労働におうところが大きく、婦人の過重労働をまねていることは一般に知られている。更に一昨年から米の生産調整にもなう作付転換がなされ、当所管内ではとくに、そ菜栽培が多くされるようになった。

その中で八尾町松原スイカとして市場では好評のあるスイカを栽培しようとする農家では規模拡大する者、新規に栽培を始める者など産地化へと歩み出した。

度々の現地巡回で、婦人の労働におう農作業が多く、スイカ出荷時期は、稲作労働が重なるため従事する婦人の健康のそ害が考えられる。産地育成の蔭に農村婦人の健康そ害があつて良いはずはなく、明るい農家生活実現のため、産地化と共に婦人の健康も両立したいと、くわしく実態をつかみ、問題点を摘出し、健康を考えた生産活動の実現に寄与しようとの調査を実施した。

2. 調査地域の概況

松原スイカとして産地化を目ざして第一歩を歩

み出した八尾町松原部落は保内地区の旧県道沿いにあり、開田をかかえた山手側に位置している。この地区のスイカ栽培農家の一戸平均水稲耕作面積は 1.7ha、スイカ栽培面積一戸平均20aで、まだ区かく整理がされていない、山田をかかえ、畦塗り作業など農作業の近代化がおくれている。

生活上のおもな特徴としては、開拓者の多い部落であり、水稲よりそ菜栽培で、生計をたてている者がほとんどで、農業収入のためならと健康への関心はうすく、主婦の農業労働における役割は必要となつており、家事労働と農業労働の両方のない手として忙しい。

3. 調査対象

このような地域の中から、上新田、中新田、下新田、松原の四部落から、スイカを栽培出荷している農家23戸をえらんで調査を実施した。

4. 調査結果

(ア) これからの農業にたいする意向アンケート
主婦が農作業に対して、どのように考えているか、アンケートをとった。

農家主婦対象意向アンケート結果表

45. 7.

対象者数	アンケート	主な働き手					あなたが主として従事する作業										欲しい時間	改善の余地があると思	これからの営農について				労働面について				労働面についての工夫の余地ある																					
		水稲	西瓜	白菜	畜産	農外	あぜ草刈	あぜぬり	手植	コログシ	除草手取	(手刈)稲刈	地干し	機もみすり	自脱	施肥			除草剤	稲作	畑作	畜産	農外	非常にうまくいっている	問題ない	働ける力に工夫がある		労働きつい	無記入																			
20才代	4人	父	4	3	1																								自由1 すいみん1	伸 減 現維持	1 1 2	1 1 2	1 1 1	1	{ 機械化 1 家事分担 1 }													
		母	2	2	1																																											
		主人	3	2		1	1	(1)	(2)	(1)																																						
		私	4	4	2																																											
30才代	6人	母	2	1	1		1																						すいみん3 農作業3 家事2 社会1 自由1 育児1	伸 減 現維持	1 1 5	2 1 3	1 1 1	1 1 3	{ 除草剤使用 3 共同利用 2 機械化 1 家事分担 1 便利器具利用 1 }													
		主人	5	3	4	2	2	4	5	5	3	3	2	2	3	3	3																															
		私	4	4	3	2		(1)	(3)	(1)	(2)	(1)	(1)																																			
40才代	4人	主人	1	3	1																								自由1 社会1	すいみん1 社会1	伸 減 現維持	1 1 3	1 1 1	1 1 1	2	除草剤使用 1												
		私	3	3	2			3	2	1	2	3	3	2	2																																	
		息子	1	2	1			(1)				(1)																																				
50才代	6人	主人	3	5	4	1																							自由1	伸 減 現維持	1 1 4	1 1 3	1 1 1	1 1 1	1	家事分担 1												
		私	4	4	3			4	2	5	3	5	5	1	3	4	1	2																														
		息子	3	1	3		1	(1)	(1)		(1)																																					
		嫁	3	3	3																																											
合計	20人																																															
								15	11	13	12	11	13	4	9	11	4	6																														
								(1)	(5)	(5)	(1)	(4)	(1)	(1)																																		

この表の数は家族の協力者の人数です

{ 例えば20才代4人の対象者中水稲に協力している人は2人 }
{ 主人が3人いるということです }

主婦が苦痛を感ずるのは、畦塗りと田植、手取り除草であり、欲しい時間は各年代とも自由になる時間であり、若い年代は睡眠時間の不足が目立っている。欲しい時間を確保するために改善工夫することは農作業の省力化とそのための機械化す

ることと除草剤の使用を考えている。

又生活面ではまず家事作業の分担の必要性を感じている。

(4) 食生活調査

食生活アンケート結果

昭45.8現

		スイカグループ	上高善寺	奥田	みずお	保内平均
		♀ %	♀ %	♀ %	♀ %	♀ %
食用油	基準量 20g	5.94 (29.7)	4.47 (22.4)	7.59 (38.0)	6.58 (32.9)	6.14 (30.7)
肉	40	5.36 (13.4)	6.93 (17.3)	0.71 (1.8)	4.09 (10.2)	4.27 (10.7)
魚	70	45.05 (64.4)	45.76 (65.4)	64.31 (91.9)	39.18 (56.0)	48.57 (69.4)
卵	45	54.04(120.1)	17.20 (38.2)	29.07 (64.6)	15.82 (35.2)	29.03 (64.5)
乳類	220	44.6 (20.3)	74.03 (33.7)	69.15 (31.4)	84.35 (38.3)	68.3 (30.9)
黄緑野菜	70	33.49 (47.8)	39.12 (55.9)	22.71 (32.4)	106.69(152.4)	50.50 (72.1)
強化米をたべている		21%	17.8%	7%	20%	14.1%
自給みその状況		豆:こうじ:塩 1:1:0.7...6人 1:1:1.2...1 1:1:0.8...5 1:0.8:0.9...1 1:1.2:0.8...1 1:0.8:0.6...1 1:1:1...1 1.2:0.9:1...1 無記入 2	豆:こうじ:塩 1:1:0.8...6人 1:1:0.7...5 1:1:0.6...4 1:1:0.3...2 1:1.2:0.8...1 無記入 10	豆:こうじ:塩 1:1:0.8...21人 1:0.8:0.5...2 1:0.8:0.8...3 1:1:0.7...2 1:1:1...3 1:1:0.9...1 1:0.8:0.7...1 1:1:3...1 1:1:0.3...1 1:1.2:0.8...1 1:5:6...1 1.5:0.8:0.8...1 無記入 1	豆:こうじ:塩 1:1:0.8...5人 1:1:0.7...6 1:1:2...1 0.8:1:0.7...1 1:1:1...2 1:1.2:0.8...1 無記入 4	

基準と比かくすると、不足しているものはほとんどであり、他地区をくらべても、必ずしもよい

食生活状態とはいえない。

(ウ) 生活時間調査

主婦の生活時間調査結果表

表 3

	農家 番号	年 令	生 活 時 間 (分)						休養率	備 考
			すいみん	休養 楽	身の回 理	家事作 業	労 働	その他		
松 原	1	25	420	210	120	270	420		0.89	
	2	48	390	180	100	240	530		0.73	
下 新 田	3	42	420	80	70	280	590		0.62	
	4	47	420	120	120	260	520		0.74	
	5	38	420		110	320	590		0.57	
上 新 田	6	26	390	80	120	500	350		0.66	
	7	54	420	260	90	190	480		0.91	
	8	42	410	140	130	170	550	40	0.81	
	9	37	390	150	100	210	590		0.69	
中 新 田	10	24	280	65	105	470	520		0.45	
	11	25	400	110	110	390	430		0.70	
	12	57	480	140	140	430	250		0.99	
	13	26	450	120	60	350	430	30	0.78	
	14	38	455	180	90	155	560		0.85	
	15	34	600	215	100	180	335	10	1.41	
平 均			423 (7時間 3分)	137 (2時間 17分)	104 (1時間 44分)	295 (4時間 55分)	476 (7時間 56分)	5 (5分)		

注 45年8月26～31日までの記録から、その人の一日平均を算出した結果。

農家番号	基礎代謝量 cal	(A) すいみん 代謝量 cal	(B) 労働代謝量 cal	(C) 不拘束時間の 消費カロリー cal	(A)+(B)+(C) (一日の消費 カロリー) cal	(まとめ 作業時間) 平均RMR
1	0.77	301	1,539	911	2,751	(560) 2.45
2	0.705	256	1,709	467	2,432	(650) 2.53
3	0.78	304	2,238	299	2,841	(770) 2.53
4	0.74	284	1,866	601	2,751	(660) 2.63
5	0.82	320	1,890	815	3,025	(640) 2.40
6	0.79	287	1,558	1,068	2,913	(540) 2.45
7	0.76	297	1,824	684	2,805	(600) 2.80
8	0.78	291	2,174	647	3,112	(670) 2.96
9	0.82	297	2,359	635	3,291	(680) 3.03
10	0.89	232	2,210	1,121	3,536	(650) 2.72
11	0.81	301	2,007	860	3,168	(600) 2.93
12	0.72	321	1,352	641	2,314	(600) 1.93
13	0.78	326	1,369	782	2,477	(570) 1.88
14	0.79	330	1,853	487	2,670	(680) 2.25
15	0.76	424	1,288	608	2,320	(500) 2.19

休養率 1.0以下の人の共通にいえることは朝作業を始めると昼まで作業をつづけ、小休息の時間をとっていない事である。昼寝をしている人が一人しかいない。

- ・仕事の組合せの仕方が考えられていない。
- ・生活時間をもとにして消費カロリーを出してみると婦人の労働限界以上の人がほとんどである。
- ・稲作とスイカ栽培との作業体系と労働時間を考えてみると(1)図のようになる一年の間に次の

時に農作業が重なる。

- ・田植えとスイカの定植後の管理。
- ・田の除草作業とスイカの追肥、土寄せ、しきわらの作業。
- ・スイカのつるたぐりと稲刈り作業。

この地区では大根も作る人が多いので大根まきもこの時期に重なる。

以上(1)図のとおりであるため、省力改善案として、(2)図の示し実施の方向にむけた。

4. 稲作作業体系と労働時間（婦人）の内訳

S45. 12. 16 加藤

(1) 現在の作業体系図

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			備考
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
稲作										種子予措	苗代一切			中耕除草			追肥			稲刈り 稲干し			珪カル} まぎ 生わら														
										本整地 田植			防除			防除			脱穀																		
										元肥			水管理			もみ乾燥			籾すり 出荷																		
スイカ										育苗			追土し人か整 寄ぎ工授ん 肥せら粉水枝			収かく																					
										耕施うト定 ねン 起肥作ル植			選荷運																								
										防除			耕 つるたぐり																								

(2) 省力の改善案

作業別		種子予措	苗代一切	本田耕起	元肥	本田整地	田植	追肥	除草	水管理	防除	稲刈り	稲干し	稲こき	籾乾燥	籾すり	合計	
稲作反当時間 (42年)	合計	0.5	5.5	3.8	6.1	11.7	19.4	1.4	16.0	15.6	3.7	20.4	14.1	13.4	1.5	5.2	138.3	
	同上中人	0.2	2.6	1.2	3.8	5.2	13.7	0.6	10.2	9.0	1.3	12.6	8.0	7.6	0.8	2.7	79.5	
	婦人の省力目標		△ 1.6				△ 0.5		△ 2.2			△ 0.6	△ 3.0	△ 3.0				(20%に省力) 10.9 54.7
当面の省力目標 (婦人労働)	反当時間		-1.0				-13.2		-10.0			-12.0	-5.0	-4.6				-45.8
	1町7反時間		-17.0				-224.0		-170.0			-204.0	-85.0	-78.2				-778.2
	主な方法		室内箱育苗				動力機械植		薬剤除草			バインダー刈	予備乾燥	自脱				
月別稲作労働時間 (42年)	日数換算	—	—	日 2.5	13.8	⊕ 17.6 (田植え) 42.6	21.5	11.7	17.4	⊕ 23.5 (稲刈り) 48.5	8.3	2.5	0.4	1ヵ月25日の労働とした場合の超過分 (主な作業)				
	時間	—	—	時 22.1	110.5	336.6	171.7	93.5	139.4	387.6	66.3	20.4	3.4	1,351.5				
	反婦人	—	—	時 1.3	6.5	19.8	10.1	5.5	8.2	22.8	3.9	1.2	0.2	79.5				
	当合計	—	時 0.1	3.1	13.0	33.5	16.6	9.5	14.3	39.2	7.0	1.7	0.3	138.3				
	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計				

5. 活動の展開

以上の調査の結果にもとづき、次のように活動を展開した。

7月上旬 ○ 農家主婦の意向アンケート（結果表参照）

7月15日 婦人の労働と休養はいかにあれば良いか
話し合い（事業の主旨説明、アンケートを
もとにしての今後の活動について）

疲労測定実施

（	正常	4人	表3
	疲労	8人	
	過労	4人	

○ 食生活実状アンケート実施（結果表参照）

8月25日 成人病とその対策（保健所長）

秋季農繁期を元気に乗り切る

（強化米の働きとその効果
栄養調査結果とその対策

共同購入の方法

○ 主婦の生活時間調査実施

（8月26～31日内の2日間）

調査結果をもとにして、各人の労働限界等
算出（参照）

11月2日 仕事の能率を下げないでいかに身体の健康
を維持するか

（主婦の労働限界算出結果
栄養調査結果

農家主婦の役割（大橋婦人会長）

12月16日 経営条件の中の改善を要する問題点の対策
検討

（稲作作業体系と婦人の労働時間
スイカ栽培の経営概況
共同購入のすすめ

3月19日 反省会

疲労度測定	正常	4人
	疲労	9人
	過労	5人

（スイカ栽培と定植準備
省力稲作
田植期間の労働管理（休息の設置）

6. まとめ

一年間、アンケートや調査をし現状を数的に把握し問題点を部落で話しあってきた。作業体系を考えてみるとずいぶん農作業の重なりがあることがわかる。その時期になると主婦たちは、いきおい農作業に本腰を入れてがんばるので、しぜんと家庭生活の管理がおろそかになり、食生活一つとってみても栄養を考えるひまもなく、いきあたりぼったりになりがちである、このような主婦の過重労働を解決するためには、まず無理のない作業計画を家族で話しあい考える必要がある。

又、この地区では農作業の省力の余地があるがそのための機械導入は効果的である。しかし個々の家での導入は過剰投資となるので、共同利用のためのグループづくりが必要であることが認識され中新田で生活改善グループとして活発な活動を実施している。

又、家においては、家族の協力が第一であり、各家族によりちがうが、家族の協力が得やすいよう主婦の普段の家族への思いやりが大切である。

そして家事作業を家族で分担し、主婦一人が無理をすることなく家族で話しあいをし、互いに無理がかかることがないように工夫し健康で明るい生活を確立してゆくため、今後もこの地域の人たちと話しあいをすすめながら普及活動をすすめた